

高水温に適応したノリ種苗を開発しています

漁業生産研究所 栽培漁業グループ

近年、ノリ養殖では海水温の上昇が大きな問題となっています。秋になっても海水温が下がらず、漁期（収穫できる期間）が短くなるほか、高水温の影響でノリが変形したり、ちぎれてしまったりする「高水温障害」が発生しています。そのため、生産者からは、この影響を受けにくい新しい品種の開発が強く求められています。

当グループでは、愛知県漁連との共同研究でノリの品種開発に取り組んでいます。これまでに開発した「あゆち黒吉」や「あゆち黒誉れ」は、県内の多くの生産者に利用されています。このうち「あゆち黒吉」は、ノリの先端やふちから離れた細胞がノリ網に付いて新しいノリに成長する「単孢子（図1）」を多く放出する特徴があります。そのため、高水温の影響を受けても回復しやすく、色が濃く品質がよいという利点があります。しかし、高水温の環境では葉の変形がやや多く、初期の成長が遅れるという課題がありました。

そこで、「あゆち黒吉」をより高水温に強くするため、通常より1℃高い水温で育て、変形が少なく生長の良いノリを選び出して新しい株を作る「高水温選抜育種」を行いました。

その結果、選抜した株（選抜株）と元の株を高水温の条件で4週間育てて比較したところ、平均の長さは選抜株が44.0mm、元の株が33.6mmとなり、選抜株の方が初期の成長が良いことが分かりました（図2）。また、単孢子の放出量を調べたところ、元の株が持っていた「単孢子を多く放出する」という特徴は、選抜株にも引き継がれていることが確認されました。

今後は、実際の養殖現場での試験などを行ったうえで、新しい種苗として、生産者への提供をしたいと考えています。

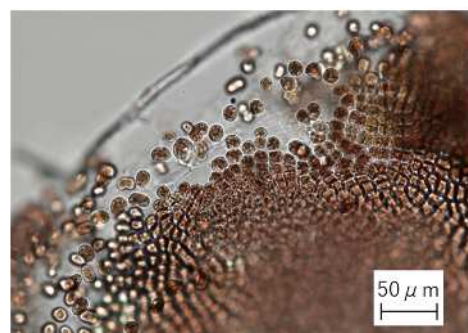


図1 単孢子放出中のノリ



図2 高水温条件で培養した元株と選抜株ノリ

いつもアマゴと会える川を目指して

内水面漁業研究所 冷水魚養殖グループ

アマゴ（図3）は、近年、川釣りの人気魚種として注目されています。こうした中、県内の河川では、資源を増やす取り組みとして、「キャッチ&リリース区間（釣った魚を逃がす区間）」の設定や費用対効果の高い増やし方として、「発眼卵放流（眼が確認できる段階まで育った卵を川に放すこと）」を行う漁協も増えてきました。そこで当グループでは、こうした取り組みをより効果的に進めるための調査を行い、その手法のマニュアル化を進めています。

今回は、寒狭川中部漁協の管内で行った調査結果について報告します。方法は、漁協管内で活動する釣り人6名に協力していただき、釣りをした時間や釣れた数、魚の大きさ（全長）を記録してもらい、2月から9月までの変化を調べるものです。

その結果、令和6年は20cm以上の大きい個体の割合が0～81%でしたが（図4上段）、令和7年は29～98%となり（図4下段）、釣れるアマゴが大きくなっていることが確認できました。さらに、令和7年7～9月には15cm未満の小さな個体が増えていました。これらは、前年に当グループが試験として放流した発眼卵によって増えたアマゴである可能性が高いと考えられます。また、1時間あたりに釣れる数も、令和7年は令和6年の約1.2倍に増えていました。今回の調査結果から、このような取り組みはアマゴ資源を効果的に増やしていることがわかりました。今後も調査を続け、川の環境に合わせた資源管理や増やし方の技術の開発をさらに進め、その成果を他の河川へ普及していきます。



図3 釣りあげられたアマゴ

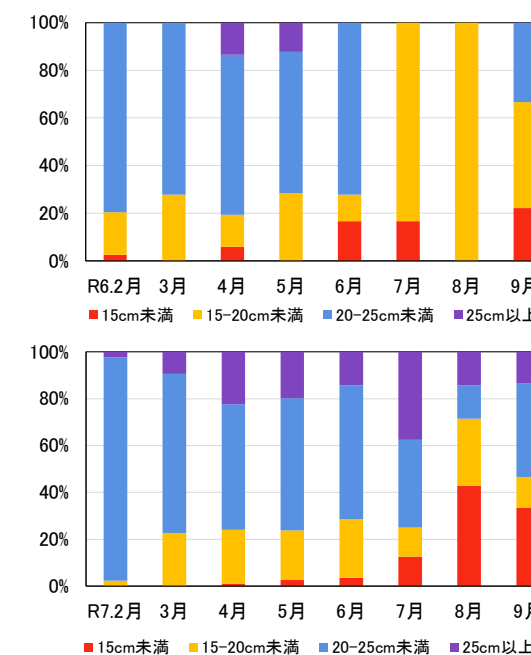


図4 アマゴの全長組成推移 (上段：R6年、下段：R7年)

【中学生限定】海とお魚漁業体験教室の受講生募集！

企画情報部 企画普及グループ

漁業体験を通して、海やお魚について学ぶ教室を開催します。アサリの漁獲や投網などの体験に加え、魚の耳石とりやプランクトンの観察などのプログラムをご用意しています。県内の中学生の皆さんのご参加をお待ちしています！

- 1 日時：令和8年7月28日（火）10時00分～15時30分
- 2 場所：愛知県水産試験場（愛知県蒲郡市三谷町若宮97）
- 3 内容及び参加申し込み方法：右の二次元バーコードをご覧ください。

